

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	○理念の共有と実践について 清流理念がスタッフ全員に浸透しておらずスタッフの思いも統一できていない現状。スタッフの入れ替わりもあり、ケアの方向性を再度確認し、介護理念の検討が必要。	清流の理念を深く掘り下げ、全スタッフで介護理念を考え、実施し3ヶ月おきに振り返りを行う。	カンファレンスの時間を利用し、5・6・7月中に介護理念を検討・決定する・決定後全スタッフに周知徹底を図り3ヵ月ごとに各自自分のケアについての振り返りを行い、よりよいケアにつなげる。	3ヶ月
2	2	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 80・90歳代のご利用者様が半数を占め、看取りを希望されているが、十分な体制が整えられていない現状。	終末期の対応について話し合い、体制を整える。	終末期のケアについてスタッフの学びを深める。また、看取りの際に対応可能な医師の確保と、看護師の増員。訪問看護と連携し対応の検討。介護職のスキルアップとしてたん吸引の研修参加。	12ヶ月
3	26	○チームで作る介護計画とモニタリング 担当制を実施中であるが、モニタリング・アセスメント・計画作成までには至っていない現状。個人が得た情報は記録やカンファレンスなどの時に話し合い共有を図っている。	担当者がケアプランを基に介護計画書を作成しモニタリング・アセスメントまでできるようになる。	計画作成者の中心に情報収集・アセスメント・計画・モニタリングの方法をスタッフに伝え、9月からは実施に移行。介護計画に関する研修等にも積極的に参加する。	6ヶ月
4	33	○災害対策 今回熊本地震を経験し、津波や河川の氾濫時の対応または、土地柄液状化現象が起こった時の対応など備えが十分ではなかった。様々なケースを想定し対応検討が必要。	火災・風災害だけではなく、地震時の対応を検討し定期的に訓練していく。	年間2回の避難訓練だけではなく、それ以外でも台風の時の対応。地震の時の対応など定期的に訓練を行なう。また、研修会には積極的に参加し、自分たちの予測できないことを経験者から学びスタッフに伝えていく。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。